

I. 調査の経緯と経過

1. 小豆島石丁場調査委員会設置に至る経緯

小豆島には大坂城築城に係る石丁場といわれる史跡が多く残る。2011年から小豆島石のシンポジウムが開催され、島の石への関心が高まってきた。だが、石丁場の詳細な調査は行われてこなかった。そのような中、2012年から徳島文理大学を中心に島内の古文書調査が実施され、石に係る史料の発掘が行われた。また、石材の運搬行程に係る研究が立ち後れている状況を踏まえ、運搬時に船積みしたであろう海岸部の石丁場遺構を調査することを目的として、2014～2018年度にかけて徳島文理大学橋詰茂による科学研究費助成事業（学術研究助成金）基盤研究(C)「東瀬戸内海島嶼部における大坂城築城石丁場と石材輸送水運に関する研究」の一環とし、小豆島の海岸部について基礎的調査が実施され、一定の情報が提供された。考古学的遺構と文献史料を組み合わせたアプローチを試み、大坂城普請以後の石材搬出に関する文書との整合性を確認している。ただ、山間部は未調査であり、調査継続の必要性が提起された。古文書調査と科研石調査に伴い、徳島文理大学学生による石に関わる展覧会が2015年から2019年にかけて開催された。そのような状況下、「悠久の時間が流れる石の島」として、近隣の備讃諸島とともに2019年に日本遺産に認定を受け、それまで以上に石への関心が高まってきた。

近年、ドローンによる空中撮影の過程で、山間部に矢穴を持った巨石が散在している状況が報告された。その場所は今までに調査されていないだけでなく、文献にも記載を見ない。また、海岸部にも新たな石丁場が発見されている。

これを契機として、島全体の再調査を実施する必要性が生じてきた。

そこで、2021年1月から、数度にわたり有識者と両町関係者とが打合せを行い、新たに石丁場を調査することとし、8月に小豆島石丁場調査委員会が発足した。委員会内に県内外の遺跡調査の専門家による調査団を組織して、5年ほどの予定で調査を実施することとなった。

2. 調査の目的

小豆島における石丁場には、文献に記されているがその所在地が明らかにできない

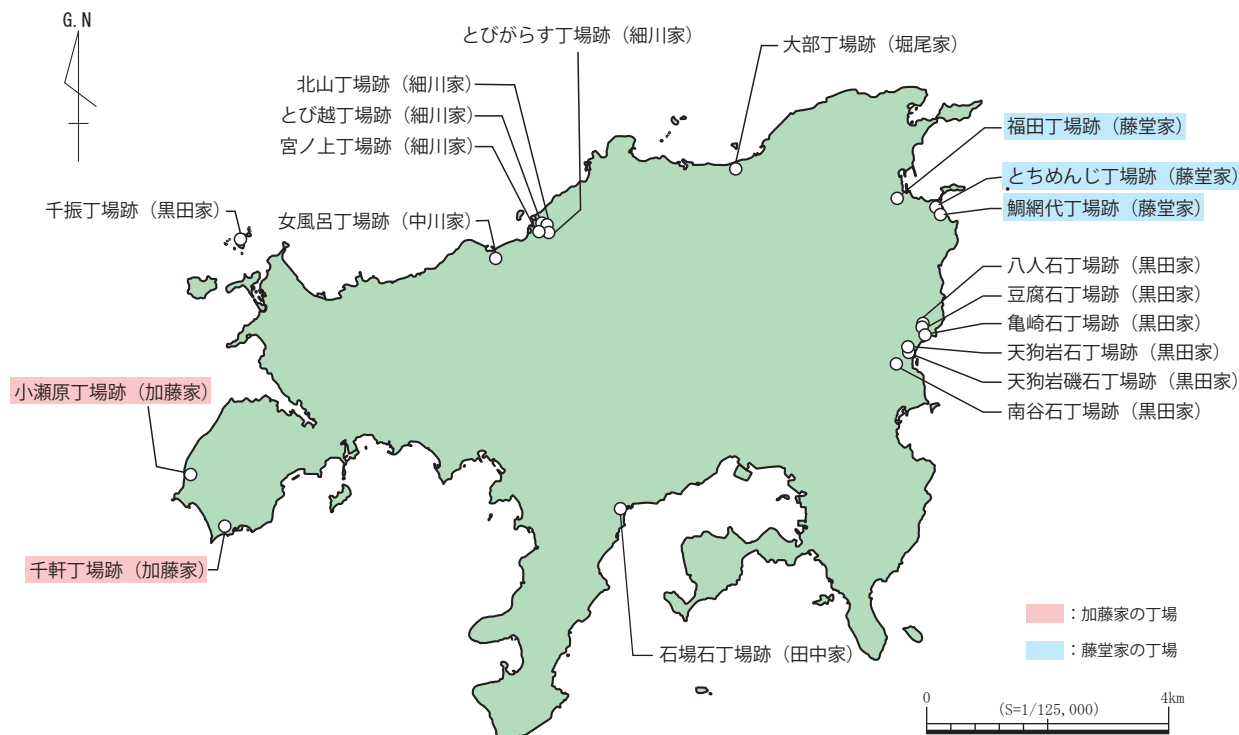
箇所、石丁場跡が存在しながらも文献に記載がない箇所、の二パターンがある。そのためには、現地を踏査し新たに石丁場の現状を明らかにすることが重要と考える。

まずは江戸期の加藤家所管の土庄町小瀬・千軒地区と藤堂家所管の小豆島町福田地区を調査対象地域とし、近代石切産業遺産と考えられる池田地区石丁場や、近世の採石のあり方が解明されていない豊島の石丁場の調査も付け加える。各石丁場の学術的価値の位置づけを行い、それが困難な場合においても、そのために必要な今後の調査項目を抽出することを目標とする。

調査は学術研究に加えて、日本遺産認定継続に資する活動も行うこととする。調査終了後に

第1表 小豆島石丁場調査委員会

小豆島石丁場調査委員会		小豆島石丁場調査団	
委員長	岡上 峰康	団長	橋詰 茂
副委員長	佐々木 育夫	副団長	大嶋 和則
	武部 広文		
委員	森下 英治	調査員	高田 祐一
	下地 芳文		梶原 慎司
	坂東 民哉		松田 朝由
	上野 進		小原 一朗
	大嶋 和則		坪佐 利治
	高田 祐一		
監事	蓮池 幹生		
	入倉 哲也		
事務局長	橋詰 茂		



第1図 小豆島の大坂城石垣石丁場マップ

各石丁場跡の文化財指定等の今後の方針や、行政が今後十分な保護体制を整える必要があること等について、提言書をまとめて両町へ提出することとする。また、島民に調査活動を理解してもらうための啓発活動として、調査概報作成やホームページ・SNS等で情報公開していくこととする。そしてこの調査により、島の石の歴史文化を後世に伝えていく一つの指針とする。

3. 調査の経過

第1回調査：2021年8月7～8日 参加者7日10名、8日7名

小豆島内における石丁場（小瀬原丁場・千軒丁場・池田地区・福田地区・天狗岩丁場・八人石丁場・豆腐石丁場・小海残石群）の踏査および空中ドローンによる矢穴石の探索を行った。池田地区で近代と考えられる保存状況のよい石丁場、福田地区小島で近世の可能性のある矢穴石を確認した。

第2回調査：2021年10月30～31日 参加者30日13名、14日14名

小瀬地区磯丁場および豊島甲生地区磯丁場の海中分布調査を行った。水中ドローン・空中ドローン・潜水により磯丁場の分布範囲を確認した。豊島甲生地区では、海岸部で近世の矢穴石や近代の製品を確認し、豊島甲崎地区では、空中ドローンにより近世前半と考えられる矢穴石を確認した。小瀬地区の山間部を踏査し、近代の可能性のある石引道と近世初頭の矢穴石を確認した。

第3回調査：2021年12月7日 参加者5名

重岩南谷筋の山間部を踏査した。複数の矢穴痕が残る巨大な種石数点および刻印石1点を発見した。また、矢穴石の拓本を採取した。

第4回調査：2022年2月23日～24日 参加者23日18名、24日9名

第3回で発見した種石の清掃および矢穴拓本の採取、写真撮影、測量を行った。また、小瀬原地区における刻印石・矢穴石の位置を把握し、測量および拓本採取を行った。清掃により種石の下にもう一つ矢穴がある種石を発見した。ボランティア3名参加。福田地区の藤堂石丁場を視察した。

参加者一覧

橋詰茂・森下英治・大嶋和則・高田祐一・梶原慎司・松田朝由・小原一郎・坪佐利治・坪佐晴美・中西裕見子・大川大地・東信男・三好順也・三好真千・岡上峰康・岡本昂久・出口明澄・村瀬龍宇一・寺内広太佳・堀之内照幸・田山直樹・大西歩・中森玲香

(橋詰)

Ⅱ．豊島における大坂城石垣石丁場跡

元和6(1620)年から開始された大坂城築城にあたり、多くの大名がこぞって小豆島で石丁場を拓いたが、小堀政一による石丁場支配が強く及んでいた。そこで諸大名は、小堀に伺いをたてながら石丁場の確保に奔走するのであった。豊島の石丁場をめぐってもその様子を知らることが出来る。豊島の石丁場は、文献に二カ所現れており、石丁場が拓かれていたことは知られていた。だが、その明確な所在地は不明というより、本格的な調査は行われていない。そこで豊島の石丁場を示す文献史料を検証し、石丁場跡の所在確認をはかった。史料によれば、肥前佐賀藩の鍋島勝茂が、小豆島に石丁場を所望する旨を小堀政一に申し入れたため、手島（豊島）内の家之浦（家浦）とかうの浦（甲生浦）の二カ所に石丁場を取ることにし、小堀は下代である長屋木工・大橋金左衛門と豊島庄屋に渡すよう命じた。小堀からの指示を受けて長屋・大橋は土庄村庄屋三郎左衛門に命じた。このことから、豊島に二カ所石丁場が存在したことが明らかである。史料は年未詳だが、元和7、8年と考えられる。大坂城第一期工事に合わせて石丁場の確保を図ったものである。

甲生地区には海岸線に二つに割れた巨石があり、そこには矢穴跡が残されている。地元では「われいし」と呼ばれ、早くからその存在は知られていた。この付近が文献に見る甲生石丁場と推定し、「われいし」を中心に調査を行った。船による海上からの海岸部と山間部の地形を確認をし、水中ドローンと空中ドローンを用いて矢穴石の分布調査を実施した。その結果、磯



写真1 甲生地区の「われいし」



写真2 甲崎地区で発見した矢穴石